

長野県総合計画審議会への意見

2017. 2. 15

長野県経営者協会 山浦愛幸

- ◎県民に夢と自信をもたせられるような明るい未来像を描く。
 - ・今までは比較的短期5年でできそうなことの羅列だったが、大きな分野ごとに、10年先20年先の目指す姿を示す。

- ◎県、民間、市町村、大学などそれぞれ分担を分けて、行政（県）としてのすべきこと、行政でしかできないことをきちんとしていく。
 - ・イベント行政から脱却して、いろいろな面のインフラ整備を中心に計画する。

- ◎産業（工、農、商、観光など）の振興を中心に置く。
 - ・経済なくして福祉なし。
 - ・職を増やし、人材の県外流失を防ぎ、県内移住を促進するには魅力ある産業、企業の集積が重要。
 - ・県民所得を増やし、税収をあげることで、福祉関係の施策もできる。

- 研究所の誘致、研究開発型企业への転換、誘致、創業を図る。
- 研究機関、大学などとのパイプを太くし、協働を促進する。
- 県内産業地区別振興
 - ・南信・・・航空産業、松本・諏訪・・・医療器産業、東北信・・・ソフト産業
- 高速交通網の整備
 - ・既計画路線（中部横断、中部縦貫、三遠南信など）の完成目標時期を設定して、県を挙げて陳情活動を積極化する。
 - ・松本空港からの定期国際路線を開発するため、滑走路の延長も視野に入れる。
- 景観の整備
 - ・主要絶景地帯のようなところを設定して、電柱の地中化、看板の撤去に関する統一化基準のようなものを設定する。
- 脱炭素社会の実現
 - ・地熱利用（大規模発電）総合研究所の設置・誘致。
 - ・県民協働で温暖化防止とその気運の醸成のため、マイカー通勤規制を考える。

以上、思いつきを書きました。

宜しく願い致します。